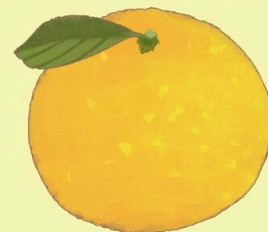


『季節の宅配便』



酸甘苦味のハーモニー

湯浅農場の『柑橘遺伝資源保存園』で栽培されている約200種のかんきつ類の多くが果実をたわわに実らせています。今回は、湯浅農場がある**和歌山県**が**全国生産量第一位**のかんきつ‘**八朔(はっさく)**’をご紹介します。



和紅八朔(わこうはっさく)



八朔の原木(因島)

もともとは、江戸時代に**広島県因島の浄土寺**というお寺の境内で見つかったかんきつ(左写真はその原木)で、明治時代に全国に広めようとしたが、なかなか全国に広まらなかったようです。大正時代にはいい、因島で八朔の出荷組合ができ、全国に広がったようです。また、**旧暦の8月1日(現在の9月上旬)**から食べ始めるころから、**八朔(はっさく)**と名付けられました。その頃の果実は酸味も甘味もなく、砂じょうはバサバサしたもので美味しくなかった。現在では冬場から収穫することで、美味しい果実が食べられるようになりました。